

## 近森リハビリテーション病院は、 12月1日、開設20周年を迎えます。



### 近森リハビリテーション病院の歴史

医療法人輝生会・新誠会理事長  
(近森リハビリテーション病院 初代院長) 石川 誠

1986年、虎の門病院から近森病院に赴任した小生は、近森会のリハ医療サービスの確立に取り組んだ。当時の近森会のリハにチームアプローチと地域リハへの理念は見あたらなかった。医師の関与は乏しく、看護は付き添い看護、リハは訓練室で行うものであり、理学療法と作業療法の関係は極めて不良であった。そんな状態であったが、いつしか新しい風が吹き始めた。



第一にチームアプローチである。頻回に顔を合わせ議論することから始め、カンファレンスの充実、記録類の一元化などにより明らかにチームとして機能していった。

第二に虎の門病院等から着任した数名の腕利き看護師の支援により付き添い看護を廃止し、基準看護を取得することで、風は嵐へと変化した。抵抗勢力もあったが手はゆるめなかった。

第三に1989年12月の近森リハビリテーション病院の開設である。1992年の診療報酬改定により総合リハ施設基準が創設されたことで、経営は奇跡的に安定した。改革はすべての部署・システムに及んだが、これらの活動が実を結び、2000年に近森リハビリテーション病院をモデルとした回復期リハビリテーション病棟が制度化された。

振り返れば、すべてはスタッフ達の情熱、努力、協調の賜であり、まさに「天地人」(人の和に如かず=人の和が大事)であった。

### 地域リハビリテーションの包括的な考えで スタートした20年前

医療法人近森会  
近森リハビリテーション病院 副院長 中山 衣代



平成元年(1989)に近森リハビリテーション病院が145床で開院した時、常勤医師は石川誠院長をはじめ4名で、新人の私は戦力にならず、随分先輩に迷惑をかけたと思う。リハビリテーション=訓練というイメージが強い時代に、地域リハビリテーションの包括的な考えでスタートした当院では、医師の仕事は病棟、外来、訪問診療など多岐に亘っていた。それは現在も変わりなく、いや時代の変遷と共に他職種との協働が強調され、さらに多忙となっている。また、医師としての技術研鑽や医学会への参加、井の中の蛙にならないためにも他病院との交流や研修会への参加など、対外活動も範囲が広がっている。

高知県は全国的にもリハビリテーションの盛んな県であるが、高知県のリハビリテーションの発展に当院が果たしてきた役割は大きいと自負している。20年の間には当院の研究会からスタートした多職種が一堂に会して意見交換が出来る高知県リハビリテーション研究会もしっかりとした会に発展しているし、26回を数える高知県リハ医学懇話会の発起にも当院は一役買っている。

院長も5代目となり、当院を経験した常勤医師も延べ20名を数え、短期研修の医師も4名来ていただいたが、皆日本全国それぞれの地域でリハビリテーション魂を持ち、活躍されている。

平成14年に180床になり、一時8名まで医師も増えていたが、リハビリテーション医のニーズは高いにもかかわらず志望者が少なく、現在は佐々木院長と4名の常勤医師で頑張っている。

しかし、当院が長年培ってきたリハビリテーションのノウハウは、若々しいスタッフの力で常に新しい取り組みを展開していけるものであり、21年目から始まるであろう次のステージに引き継いでいきたいと考えている。

近森リハビリテーション病院 20周年

# リハビリマインドを伝える



近森リハビリテーション病院  
2階病棟シニア師長  
増田 千恵

1986(昭和61)年4月は、近森会にとっても私にとっても記念すべき年でした。それは23年前のことですがリハビリテーション(以下リハビリと略します)専門医として石川誠先生が近森会に着任した年だからです。当時の近森病院は、救命救急が主体であり寝たきり患者が3分の2を占め、そのほとんどに付き添い婦が付いている状態であったのです。

そして石川先生が手始めにしたことは、近森病院分院(80床、現「援護寮まち」)の改革でした。その頃の分院は、リハビリ科の看板は掲げていたもののリハビリをしている患者はごく一部にすぎず、あとは、透析と寝たきり患者で占められていました。もちろん付き添い婦もほとんどの患者に付いていました。

私もそこに勤務していた一人で、毎日看護の面白さもあまりなく、ちょっと退屈に感じていました。そんな時に、石川先生がリハビリ医療をすると、虎の門病院の看護師の皆さんと共にやってきたのです。

まず着手したのが付き添い婦の全面撤廃、基準看護の導入、障害者向けのハード面の整備でした。中村師長(リハビリ病院初代師長)より『明日から付き添いを外し、全ての患者さんのケアは私たち看護師がします。貴方は明日は日勤リーダーですよ!』と言われても、何をどうしていいのかわからず虎の門の看護師のすることや石川先生の指導のもと、何とかついていったという記憶です。彼らの教えを見様見真似にしていると、患者がドンドン良くなって行くのが手に取るように分かり、リハビリ看護の魅力を実践を通して学ぶことができました。

今もある看護実践の最低基準11項目は、その当時、虎の門病院で看護師が実践していた内容を基に作ったものでした。現在ではわずかに内容が違うもの全国回復期リハビリ病棟の看護実践基準となっています。

開設20周年を迎えた今日、最近では石川先生を知らないスタッフもぐっと増えているなか、システム・ハード・ソフトと共に整い、23年前のリハビリ病棟を始めた頃から言えば、数段上を行っていると思います。石川先生の教えたりハビリマインドを絶やすことなく邁進することが私たちの使命だと思っています。

●リハグループの主な出来事(略年表)

1974. 3	近森病院 理学療法施設認可	1993.12	老人保健施設いごっばち開設
1979.12	近森病院分院 理学療法施設認可	1994. 4	在宅総合ケアセンター開設
1980. 1	言語療法室開設	1998. 5	在宅総合ケアセンター近森開設
1980. 4	近森病院分院作業療法施設認可	2000. 7	PT・OT 週7日訓練体制導入
1986. 4	分院にリハビリテーション科開設	2000. 8	2.3.4階全て回復期リハビリ病棟認可
1987. 2	継続医療室発足	2002. 6	近森リハビリテーション病院 180床
1987. 8	近森リハ病院開設準備委員会発足	2003. 4	地域リハビリテーション活動室新設
1988. 6	本院にリハビリテーション科開設	2005. 6	近森病院言語聴覚科開設
1989.12	近森リハビリテーション病院開設	2006. 6	訪問リハビリテーション近森新設
1990.11	基準看護特2類	2007. 7	在宅総合ケアセンター近森閉鎖
1992. 5	リハビリテーション総合承認施設許可	2007. 8	近森リハ病院 地域支援部開設
1992. 6	病棟担当制と看護部2交替制導入	2008. 4	地域リハ部は高知ハビリセンターへ
1993. 5	病棟訓練開始	2008. 9	回復期リハ病棟入院料1取得

第7回 高知中央医療圏 2009.10.17 かるぽーと

## 脳卒中地域連携パス合同会合 「運用報告勉強会」を開催

脳神経外科部長(高知中央医療圏 脳卒中地域連携パス 事務局) 高橋 潔



●昨年7月開始で

今回は、163名のご参加を得て国立病院機構高知病院の担当で開催されました。脳卒中では病院の機能分化に伴って単一の病院での治療の完結が困難であり医療連携問題は避けて通れません。円滑なシステム構築を目指して地域一帯として昨年7月から取り組みを始めました。

●脳卒中 1,667 症例で 59%が連携パス

現在計画管理5病院、連携29機関から構成されています。脳卒中連携パスの取り組み結果や問題点を話し合いました。約1年間での新たな脳卒中症例は1667症例あり6割で連携パスが使用されていました。

●情報を出す側と受け入れる側の違い

病院間での連携に関してはかなり使用され問題点も次第に明らかになってきています。急性期と回復期では情報を出す側と受け入れる側との感覚での相違点大きい印象です。1年間経過して最終的な到達目標である「脳卒中患者さんがうまく病院間を連携できたか」がどの程度達成されるか検証していきたいと考えています。また、病院間だけでなくかかりつけ医との間でも連携を有用にする取り組みにしたいと考えています。

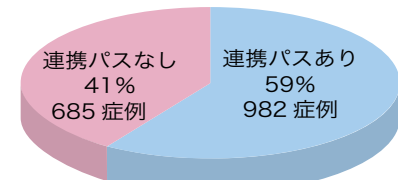


▲国立病院機構高知病院担当者の皆さんと



●2年ごとの改定を

連携パスは2年ごとの改定を考へており、次回は2010年4月の予定です。



調査項目	件数	平均在院日数
①急性期⇒自宅	295 (30.0%)	15.3日
②急性期⇒回復期⇒自宅	431 (43.9%)	25.2日
③急性期⇒回復期⇒維持期	86 (4.6%)	37.0日
④急性期⇒維持期	45 (1.7%)	45.6日
不明(内20件算定あり)	126 (12.7%)	—

放射線科を中心に開催 2009年10月31日(土)  
高知県民文化ホールで

## 第12回 公開県民講座

ここまで見えるぞ! 画像診断



▲フタッパ一同舞台上

放射線科 / 画像診断センター 部長 森田 賢

(前列右から四人目)

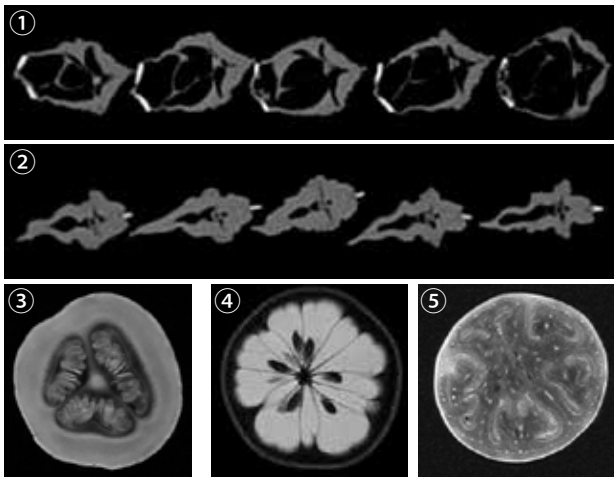
今回は 1500 人収容の大きな会場のうえ、土曜日の午後という時間帯で、どれ程の皆さんに集まっていたか心配しましたが、幸い天候にも恵まれ、4百人という予想以上の入場者があり、胸をなでおろしました。

肝心の講演内容を見てみると、まず私の「はじめまして! 画像診断センターです」では、講演の導入として画像診断の歴史と放射線科の日常業務を概説し、近森病院画像診断センターで行っている主な画像診断をビデオで紹介しました。

臨床検査技師の古田博美による「超音波 (US) で何がわかるの?」では、本物の検査機器を舞台上に持ち込んでの実演のあと、腹部のよく見られる疾患と病理像との対比や、最近注目されている頸動脈エコーをわかりやすく解説しました。

続く放射線科の清水和人科長による講演「MRI ってなんだろう?」では、高齢社会の到来により増加している“寝たきり”にならないために役立っているMRIの骨折や認知症、脳血管障害の早期診断に果たす役割を、最新情報を交えたユニークな切り口で紹介しました。

余興では当日の入場記念品であるメジャーを使いメタボリック対策として腹囲を測り会場の笑いを誘ったあと、身近な食品や日用品のMRIやCTによる摩訶不思議な画像を映し大いに盛り上がり、最後の宮崎延裕科長による「CTこ



▲磁石を使って水素原子の動きを見るMRI。レントゲン博士の発見したX線を透過して映すCT。両方の画像を高橋技師長が映すと、あら不思議「これは何?」。答えは下段で!



▲古田博美さんの講演ではエコーの実演。同会を務めた成岡美穂Nsが舞台上で詳細説明



▲メタボ対策の余興では入場記念のメジャーを使い会場の笑いを誘い、一息つきました

ここまでみえます」で締めくくりました。ここではCTの原理や最近の進歩を紹介したあと、血管造影に匹敵する心臓CTの実際やIVR(詳細は近森病院ホームページで)施行時のガイドとしての役割、手術材料選択時のCT画像からの決定などCTの新しい利用方法を紹介しました。

どの講演もどちらかといえば専門的でかなり難しい内容でしたが、一般人にもわかりやすいように動画を駆使したり、皆の工夫が表現できたのでは、と自負しています。ご参加の皆さまの今後の健康管理に役立つことを願ってやみません。

働き盛りのうつ病のリハビリと  
本当の回復までの長い道のり

うつ病からの具体的な復職方法や、就労支援を行なう「語ってぼちぼちいこう会」に繋げるプログラムなどについて、第二分院の宮崎洋一副院長が行なった第2回高知心身医療研究会(2009.10.24)講演要旨を紹介します。



講演中の宮崎副院長

近森病院第二分院が新築された平成14年11月、従来の治療プログラムに新たなプログラムを追加して、うつ病や軽症の精神疾患の復職と再就職に特化したリハビリデイケア「パティオ」を創設し、同時にうつ病や軽症精神障害専門のストレスケア病棟も開設した。当時、就労支援に特化した施設は全国で5カ所ほどだったが、今日では50カ所以上に増えている。それだけ、就労支援に具体的に役立つ施設が求められているということだろう。

ところで、うつ病の捉え方にはいまだに誤解が多いようだ。①うつ病は「心のかげ」など何だか響きの良い言葉だが、風邪で人生を棒に振ったり自殺することはない。②うつ病は3~6ヵ月で治ると言われるが、休職

に至るようなうつ病の回復には取りあえず半年から一年は必要だし、失った自信を取り戻すにはさらに数年を要すると覚悟すべき。

うつ病にリハビリがなぜ必要か。うつ病には休養が最優先といわれてきた。心理的負荷を軽減させ急性期を脱することは確かに重要だが、慢性疲労を取るには休養よりむしろ心身を動かし活動性をあげ、規則正しい生活リズムをつくることこそが効くと考える。

例えば「パティオ」の卒業=復職再就職の目標には①うつ病に至った経緯を振り返り、同じ轍を踏まないよう「傾向と対策」を練る。②生き方が少し柔らかくなる、などを設定している。次段階プログラム「語ってぼちぼちいこう会」は、月一度の夜の集まりで、復職後の仕事面の現状をお互いが語り合い、似た悩みを持つ人たちが刺激し合っており、就労支援に大いに役立っている、と自負している。

## 公開県民講座の答え

右の写真は参考までに。

- ① うるめの胴体のCT画像
- ② うるめしっぽ部分CT画像
- ③ かぼちゃのMRI画像
- ④ 文旦のMRI画像
- ⑤ 米茄子のMRI画像

※ MRIは核磁気共鳴画像法、CTはX線による断層撮影法



## 日本褥瘡学会 認定師

※日本褥瘡学会は、褥瘡とその手当に特化して、褥瘡の研究の充実と発展、さらに研究の成果の普及を目的として、1998年（平成10年）10月に創立されました。



真壁科長

赤松部長

●認定師制度は、褥瘡医療水準の向上を目指し、その目的達成のために認定師制度を日本褥瘡学会が設けたもの

近森病院 栄養サポートセンター科長

真壁 昇

### 気がつけば褥瘡認定師

振り返ると10年前の褥瘡学会では、局所治療と徐圧が主なテーマで、栄養関連のセッションは少なかったのです。しかし管理栄養士として、栄養との関連性に気付き、その重要性を唱え続け、現在全国で4人しかいない褥瘡認定師の1人となりました。もうすでに褥瘡対策関連の仕事が始まり、まさに仕事の報酬は仕事です。

近森病院には、褥瘡に対する熱いパッションを持った赤松順先生や山下佐和師長等がいます。そのパッションにガンリンを注ぐ仕事をしたいと思っています。

### 近森病院 形成外科部長 赤松 順 資格を目指しませんか

褥瘡認定師は学会在籍4年以上の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士を資格対象とし、教育セミナーへの参加、褥瘡の予防および治療に関する医療記録の提出で日本褥瘡学会より認定されます。

皮膚排泄ケア認定看護師だけに委ねられた褥瘡ハイリスク加算などにも準ずる方向性を学会として検討しているようです。

褥瘡の知識が広がり、幅広く多職種連携で、褥瘡予防・治療に貢献できればと思います。皆さんも資格取得を目指しませんか？

#### お知らせ

- 12月18日(金)18:30～ in 高知パレスホテル 第61回地域医療講演会 慶應義塾大学大学院教授 田中滋先生 テーマ「これからの医療政策を考える」
- 2010年1月9日(土)18:00～ in 高知新阪急ホテル 近森リハビリテーション病院開設20周年記念講演会 輝生会・新誠会理事長 石川誠先生
- 1月16日(土)9:00～ in コンフォートホテル 第3回 近森病院・高知赤十字病院合同パス大会
- 1月23日(土)10:00～12:00 in 高新文化ホール 第62回地域医療講演会 医療安全セミナー テーマ 転倒を防ぐ
- 1月30日(土)桂浜荘で 平成21年度日本看護管理学会例会 in 高知宿

10月より総務課長として仕事をさせていただくようになりました。総務課業務の経験はあるものの、近森会の職員数と規模は未知の世界であり、今はまだこの規模ゆえの雑務処理と格闘する日々を送っております。

総務課の最も重要な業務は、お給料や福利厚生に関する内容ですが、労働条件に直結した内容のため、職

## 乞 熱烈応援



総務課長 小松 左和

員の労働意欲を左右することもあり得ます。私が総務課に於いてしなければならない仕事は正にこのことであると考えています。

“働き甲斐のある職場”“ここに就職してよかった”と職員が常に実感を持てる環境やシステムを構築していくことを課題として、仕事に取り組んでいきたいと思っています。よろしく願い致します。

### 急性期リハビリテーション シリーズその5

## 摂食・嚥下リハビリテーション

近森病院言語療法科

井上 浩明

### 求められる 身体と生活に、 より即したアプローチ

急性期における摂食・嚥下リハビリテーションの目的は、患者の摂食・嚥下能力を的確・迅速に評価し、全身状態にあわせた最も安全と思われる栄養獲得手段を検討することと考えます。

具体的には、医師の指示のもと、適切な安全管理下でリハを実施します。血圧・心拍・呼吸など全身状態が不安定な患者も多く、時には経管栄養を選



▲ 昼食の最中に病棟でノドの動きを聴診器で確かめる井上 ST

択せざるを得ない場合もあります。当院における摂食・嚥下リハの対象は、脳血管・呼吸器・循環器・消化器・神経筋疾患、術後の廃用症候群など多岐

にわたるため、適切なリハを提供するためにはリスク管理や病態の理解が必須です。

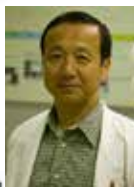
また、並行して患者さんご家族の生活を考える必要があります。例えば、退院後の患者さんの生活状況（活動量など）やご家族の介護力を考慮したうえで食事形態や姿勢の検討を行う場合があります。つまり、全身状態が安定せず在院日数が短い急性期の摂食・嚥下リハでは、患者さんの身体と生活に、より即したアプローチの検討が必要といえるでしょう。

食べることは人生の楽しみの一つです。患者さんが「安全に食べる」ことをサポートできるよう、急性期治療中での摂食・嚥下リハを他職種と共に発展させていきたいと考えています。

## 2009年度インフルエンザへの対応

## 基本に忠実に

近森病院副院長/近森会グループ感染対策委員会委員長 北村 龍彦

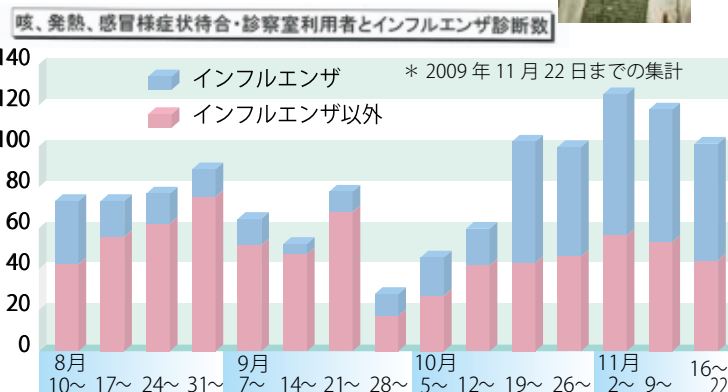


毎年のことですが、インフルエンザは流行性感冒（流感）として、冬に流行する風邪として一般的です。近年は新型として、高病原性の鳥インフルエンザの人から人への流行対策が整備されてきました。

しかし、2009年度は予想もされていなかった豚インフルエンザが、春から一気に世界中に広まり、WHOのフェーズ6宣言、日本での大流行につながっています。刻々と新事実が明らかになり、日本でも厚生労働省から県を通じて医療機関や国民へ対策が講じられています。

近森病院では、その最新情報を高知県からの通知の前に、各ホームページから入手し、ICT（感染対策チーム）が迅速にかつ短期間に基盤を整備、医療機関としての対応や、サーベイランス、ワクチンプログラムを実施しています。

また、近森病院では、日々増加し続けている外来患者さんへ、内科の医師を筆



頭に、医療スタッフが24時間、発熱・咳・感冒様症状待合と診察室で診療に奮闘しています。

いまさらですが、個人ができるインフルエンザの対策の基本は、常に自身の健康・衛生状態を保つこと（手洗い・うがい・洗面・入浴）、栄養と睡眠を十分にとること、咳が出るとマスクと咳エチケット、症状があれば早めに医療機関へ受診、同居家族がインフルエンザなら濃厚接触者として、1週間はマスク着用、体温測定と自己の健康チェックを続けることです。

どんな疾病や災害に対しても、恐れずパニックにならず、グループ全体で、冷静になすべきことを全力で取り組み、対応可能と信じています。頑張りましょう。

## 管理部長のこだわりカンタンヘルシー美食13

川添 昇



絵担当の吉田妃佐さん

いつもプロ級の絵ありがとうございます！

最近不景気のせいで外食する人が少なくなり、自宅でゆっくり一人で飲んだり友人を呼んでの酒盛りーいわゆる「家飲み」が増えているとマスコミは伝えている。本当に淋しいことだ。これまで夜の街で使ったお金を合計すると「家の1,2軒も建った」と豪語する高知の飲ん兵衛のおじさんの話が懐かしい。

今回は友人との家飲みとき、思わず余ってしまった～

## ～ 刺身の後始末

画 臨床栄養部 科長 吉田妃佐

## 〈材料〉

刺身の残り（鯖や鰹、ハマチ、鯛などの青魚、白身系がいいと思う）

## 〈作り方〉

鉄板焼のプレートにオリーブオイルを敷き、刺身をさっと焼く（できれば半生状態で）レモン醤油かポン酢をさっと付け、食す。

なお、（先年いただいた）優れたもののミルでコショウをかけると洋風になる。

## 〈食べ方〉

小泉武夫先生並みの究極のカンタン料理。これがシンプルで酒（冷たいの）がいいと思う）がいくらでも進んで困る。オリーブオイルが何ともまったり感を醸し出してくれる。シメの、ご飯のおかずでもいいと思う。

という次第で本年のシメを迎えます。「こんなにカンタン調理でいいの！でもナイスアイデア」「手抜きの本ントになる」など、あまり嬉しくもないような感想が聞こえてきていますが…。来年も佳い年となりますよう。

## リレーエッセイ

## ボク流 冬の過ごし方

近森リハビリテーション病院

理学療法科 畠山 正

本格的に寒い季節になりました。スキーやスノーボードなどのウィンタースポーツが好きな方には最適な季節です。僕の周りのアウトドア派の方は冬も活動的です。しかし、インドア派の僕にとっても冬は活動的になります。特に最近はチーズケーキ作りが趣味となっています。よく「なぜチーズケーキ？」と聞かれます。きっかけは小学校の頃に家庭科クラブで作ったことをふと思い出したことです。最初は暇つぶし程度で作っていたのですが、今では友達の誕生日や何かイベントがあれば作っていくようになりました。

お菓子作りは材料の分量・配合が重要ですが、量り器を持っていないため、目分量で作ってしまいます。そのため、チーズケーキの味や食感も毎回



違い、失敗することもあります。性格的に目分量で作る方が自分には合っているように感じます。そのかいあってか今では、量り器がなくとも、かき混ぜた時の感触や味でどういう風に焼き上がるか、想像がつくようになりました。次はチーズケーキ以外のお菓子にも挑戦してみたいと考えています。

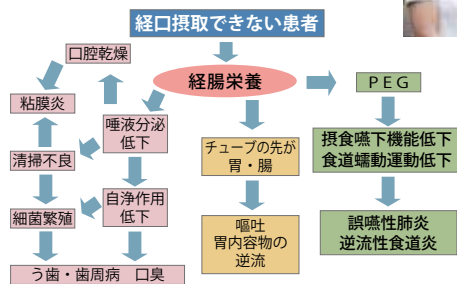
寒い季節になると、外に出かけることが少なくなってしまいがちです。ひとりである時間が多くなると心も体も冷たくなりそうです。そういう時には、趣味に没頭するだけでなく、友人と鍋を囲み、お酒を飲みながら寒い季節を楽しく過ごしています。ただ、来年こそは友人以外の方と楽しい冬を過ごしてみたいものです。

# 病院での歯科衛生士の必要性を強調

## ①急性期病院での役割

近森病院 3階東病棟 北川 弥生(左)

### 専門的口腔ケアの必要性



※当日発表の資料から

近森病院での歯科衛生士の業務内容は、専門的口腔ケア、心臓血管外科術前口腔診査、歯科往診依頼、口のリハビリテーション委員会活動です。

急性期では絶食や経腸栄養の患者さんを対象に口腔内状態を評価、口腔内状態に合った、ケア物品を選定し、ケア方法を立案しています。病棟看護師、他職種と連携し、全身状態と同様に口腔衛生状態、摂食・嚥下機能といった点も重視することで、誤嚥性肺炎の予防、早期経口摂取へ繋がる口作りを行っています。

一般的に、「病院での歯科(衛生士)」と聞くと、「口腔外科」を想像される方が多いと思いますが、院内はもちろん、院外での活動の積み重ねが、今後の歯科衛生士の活躍の可能性を大きく広げてくれるのだということを実感しました。



## ②回復期病院での役割

近森リハビリテーション病院 楠瀬 美佐(右)

法人内では、急性期の歯科衛生士との連携や、回復期という患者さんの能力が変化しやすい時期に多職種とのチームアプローチについて、また歯科衛生士の行う専門的口腔ケア、維持期へと移行される患者さんの口腔ケアの家族指導や転院先や地域との連携のとりかたなどの内容でした。

会場からは、歯科の併設されていない医科の中で歯科衛生士が勤務することで診療報酬はとれるのか?という質問があり、現在は摂食機能療法のみでの算定であるということをお答えしました。

将来的に歯科の併設されていない医科の中で歯科衛生士が専門的口腔ケアを実施することで診療報酬が算定できるようになることを期待するとともに、高知県下の病院では、まだまだ歯科衛生士の配置が少なく、今回のような学会発表を行うことで医科の中に歯科衛生士の必要性が認められ、今後広がりをみせることを期待しています。

当院を退院された患者さんのフォローや、歯周病のリスク管理における患者指導など課題は山積みですが、少しずつクリアしていきたいと考えています。

### 職員への口腔ケアの啓蒙・啓発



- ・新人研修(全職員対象)
- ・口腔ケアの勉強会の開催
- ・摂食・嚥下委員会活動
- ・口のリハビリテーション認定看護師制度
- ・職員歯科健診など

※当日発表の資料から

### シリーズ★近森会交友録エッセイ

## 近森会を実家とし、財産として…

社団法人 日本精神科看護技術協会 専務理事 仲野 栄

高知女子大学家政学部看護学科を卒業し、近森病院で精神科一筋に約20年。その後、日本精神科看護技術協会理事の仕事に携わり各地を渡り歩くようになり、近森会を外から眺める機会が増えた。履歴書はつねに3行で済む経歴のカンタンさが密かに自慢!(笑)



近森会は、私の実家です。

卒論の調査に協力していただいた縁で、私は昭和60年春に近森会に入職しました。以後、平成14年に退職するまで、ずっと精神科グループで勤務しました。退職後も近森会との縁は切れず、近森会の方々とよく会っています。今の職場の研修会や学会に参加してもらったときに声をかけてくれることもありますし、厚生労働省の委託事業で調査研究をお願いすることもあります。また、東京のお店で偶然ばったり会ったりもします。これだけ頻繁に会っていると何だか退職したことも忘れて、つい「うちの病院」などと言ってしまうことがあります。

今、近森会で働いている皆さんは、近森会を外から見るとはあまりないと思います。外から見ると、近森会はかなり有名な病院です。先日も、厚生労働省の「チーム医療の推進に関する検討会」で、川添管理部長さんがプレゼンテーションを行っています。この検討会は医療関係職種の連携のあり方等を議論するもので、注目を集めている検討会です。そこで、地域の基幹病院として急性期医療を中心に展開してきた近森病院のチーム医療の文化が、虎の門病院と聖路加国際病院と並んで紹介されました。このように、近森会の名前は厚生労働省関係の方には知られており、私が自己紹介すると「数年前に見学に行きました」と言われることも少なくありません。中で働いているときにはわからなかった全国の医療事情とそこの近森会の存在が、退職して外から見てよくわかるようになりました。

そんな近森会は、私が看護師として生まれ育った場所であり、今の私の財産です。

シリーズ●近森会グループが日頃お世話になっている県内外の方々から、エッセイを寄せていただくコーナーです。どんなお話が展開されますやら。読者の皆さまもぜひお楽しみください!(ひろっぴは編集室)



全自動輸血検査装置の前で山本検査技師

### 認定輸血検査技師

『認定輸血検査技師』試験に合格しました。認定輸血技師とは輸血の安全性の向上に寄与できる技師の育成を目的に導入された資格で、全国で約1400名、高知県では約10名が活躍しています。近森病院は救急病院であるため輸血症例も多く、輸血の安全性と適正使用が求められています。技師としての専門知識を生かし、他職種の方とも協力し、輸血業務のレベルアップに貢献できるよう積極的に頑張っていきたいと思っています。

(臨床検査室 臨床検査技師 山本 綾)

# 2009年度 職員旅行

その2

エジプト第1班 (11.3 ~ 11.8)

●アフリカ大陸北端、中東の国エジプト。BC5千年ごろ農耕が始まり、世界最古の文明はナイル河の賜物といわれる。近森第1班 46 + 2人はカイロ、ギザ、ルクソール、アブシンベル各巨大遺跡を朝4時起きで網羅してきました！



▲カイロギザ地区の三大ピラミッドは完成度保存度とも抜群。中央に建つカフラー王のピラミッド前で、思いっきり羽を伸ばし、みんなで「ヤッホーッ!!」  
▼ピラミッドを横目に、実はラクダにも乗った「ヤッホーッ!!」



BC1500 ごろ、エジプト初の女王様ハトシェプストが造営した葬祭殿は、ルクソール西岸・王家の谷東側の断崖を背に建つ。汗をかきつつ集合の50人



◀葬祭殿の坂を登り旅の開放感に「ヤッホーッ!!」

郊外の風景



北海道周遊 旭川・十勝・釧路 (10.5 ~ 10.8)



旭岳温泉ホテルベアモンテで



## 私のこの一枚

だってっ日本人だもん

訪問看護ステーション  
ラポールちかもり 保健師

田口 喜子 (ゆきこ) 念のため左から二人目



オーストラリア人の友人(左端)の家族が来日し、我が家に招待した時の一枚です。初めての和食に興味津々だったのが印象に残っています。寿司、天ぷら等、お口に合うものもあれば、すまし汁は一口だけでフワッと笑って終わり、梅干しはニコニコと見つめるのみでした。

異文化理解と看護は、どこか共通する部分がある気がします。全部は食べられなくても、少しずつ味わえたら良いかなあ、と思う今日この頃です。

## 看護部オープンホスピタル 2009.11.3



看護学生だけでなく、県外からご家族一同で、ご夫婦で、近森会グループの看護について知っていただけで盛り上がりました。まず、梶原統括看護部長より看護部について、岡本老人看護専門看護師よりキャリア開発について、辻看護師より循環器看護の楽しさについて説



明した後、2班に分かれ施設見学を行い、近森会グループの看護について知っていただけではないかと思えます。

今後も多くの方に近森会グループを知っていただき、就職していただけるよう、来年春には第2回を開催する予定にしています。ぜひご参加ください。

## 12月の歳時記



### ブバルディア

文と画 手術室看護師  
田中 陽子

メキシコ地方原産。昭和初期頃に渡来。常緑の小低木で赤、白、ピンクなど花色豊富。筒形が特徴的。切花、鉢物として広く利用されています。別名「ブバリア」。花言葉は「愛の誠実」「空想」「夢」「情熱」「幸福な愛」なんて素敵な花言葉なんでしょう。迷わずこの花を選びました(笑)



## 健康保険組合 役員就任のお知らせ

投票の結果、次の通り決まりました。

- |          |         |
|----------|---------|
| 理事長 近森正幸 | 監事 寺田文彦 |
| 常務理事 川添昇 | 議員 田中 努 |
| 理事 梶原和歌  | 議員 筒井由佳 |
| 理事 森田 賢  | 議員 町田清史 |
| 理事 久保田聡美 | 議員 明神和弘 |
| 理事 松木秀行  | 議員 佐々木司 |
| 監事 小松左和  | 議員 田村雅一 |



2009年10月29日開かれた第1回近森会健康保険組合 組合会

クリニック探訪33

(医) 仁照会 <sup>しんしょう</sup> みなみが丘 **ポラリスクリニック**  
 e-mail: polaris.clinic@gmail.com

tel. 088-841-3880  
 fax. 088-803-4618

上町二丁目を南へ鷲尾トンネルを抜け南ヶ丘団地。道路に看板



院長・森澤 嘉彦

趣味は旅行とドライブとゴルフです

診療は消化器・肝臓内科を専門とする内科外来と、週4回(火金は午後、水土は午前)女性医師による皮膚科(美容外来含む)。適宜、超音波や内視鏡等も積極的に行ない、各種病気の予防と早期発見に努めています。近森病院と密に連携をとり、患者さん第一で診療に当たっております。 ※名前のポラリス(北極星)には、患者さんに「いつもここに居ます」という熱い想いを込めている。

外来で胃内視鏡や腹部エコー検査も行なっています。

診察	曜日	月	火	水	木	金	土
8:30 ~ 12:00		●	●	●	●	●	●
14:00 ~ 19:30		●	●	16:30 ~	●	●	12:30 ~

待合室でスタッフ集合。開放感いっぱい優しい光に癒される



**診療科目**  
 内科 消化器科 肝臓内科  
 皮膚科  
 リハビリテーション科  
 ●日曜祝日は休診

図書室便り (2009年10月受入分)

- ・整形外科医のための新マイクロサージャリー DVD付 / 別府諸兄 (編集)
- ・DVDで動きがわかる モーション解剖アトラス下肢・骨盤DVD付 / 山下敏彦 (監修)
- ・消化器内視鏡技師試験問題解説 (III) / 日本消化器内視鏡学会、消化器内視鏡技師制度審議会 (編集)
- ・三訂 訪問看護実務相談Q&A平成21年4月改定版 / 社全国訪問看護事業協会 (編集)
- ・介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引平成21年4月版 / 社会保険研究所 (編集)
- ・社会医療法人の会計と開示 / 監査法人トーマツヘルスケアグループ (編集)
- ・新しい医療法人制度の理解と実務のすべて 経過措置型、基金拠出型、特定・社会医療法人 / 松田紘一郎
- ・「社会的入院」の研究 高齢者医療最大の病理にいかに対処すべきか / 印南一路
- ・社会保険六法 平成21年度 医療保険編 / 谷口正作 (編集)
- ・健康保険法総覧平成19年4月版 / 川上雪彦
- ・平成21年版 看護白書 挑戦し続ける看護のスペシャリストたち / 日本看護協会《別冊・増刊号》
- ・別冊整形外科56 関節周辺骨折 ー最近の診断・治療 / 高岡邦夫 (編集)
- ・臨床栄養別冊 日本人の食事摂取基準2010年版完全ガイド / 田中平三
- ・臨床放射線 別冊 新版 これで完璧! MRI / 山下康行 (編集)
- ・デンタルハイジーン 別冊 根拠を知ったらうまくいく! セルフケアの処方箋 患者さん説明用媒体つき / 中川種昭 (他編著)
- ・日本医師会雑誌 特別号(2) 生涯教育シリーズ77 高齢者診療マニュアル / 林 泰史 (他監修)
- ・臨床心理学 増刊1号 心理療法再入門 対人援助の技とところ / 村瀬嘉代子 (他編集)
- ・精神科治療学 Vol.24 増刊号 精神療法・心理社会療法ガイドライン / 精神科治療学 編集委員会 (編集)
- ・リハビリナース 秋季増刊号 THE リハビリテーション看護 この1冊で「なぜ?」と「どうする?」がすぐわかる! / リハビリナース編集部 (編集)《DVD・ビデオ》
- ・Audio-Visual Journal of JUA Vol.15 No.4 / 日本泌尿器科学会 (監修)
- ・胆と膵30 巻臨時増刊特大号 付属DVD 胆膵治療内視鏡のエキスパートテクニック / 医学図書出版編集部 (監修)

近森会グループ	
外来患者数	17,901人
新入院患者数	805人
退院患者数	837人
近森病院	
平均在院日数	15.14日
地域医療支援病院紹介率	86.90%
救急車搬入件数	362件
うち入院件数	183件
手術件数	426件
うち手術室実施	278件
→うち全身麻酔件数	163件

2009年10月の診療数

企画情報室